

佐賀県研究成果情報（作成 2021年3月）

[情報名] 上場地域ネギアザミウマの各種施設カンキツ殺虫剤に対する感受性

[要約] 上場地域のタマネギから採集したネギアザミウマ成虫はモスピラン SL 液剤、スタークル顆粒水溶剤、トランスフォームフロアブル、スピノエースフロアブル、エクシレルS E、ファインセーブフロアブルに対して感受性が高い。

[キーワード] 施設カンキツ、ネギアザミウマ、殺虫剤、感受性検定

[担当] 上場営農センター 研究部 畜産・果樹研究担当

[連絡先] 0955-82-1930 uwabaeinouseuta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 病害虫

[背景・ねらい]

ネギアザミウマは主にタマネギに寄生して増殖し加害する。その一部は周辺の施設カンキツに飛来し果実への吸汁被害が発生する。当地域のネギアザミウマに対して有効な殺虫剤を明らかにするため薬剤感受性を検討する。

[成果の内容]

1. タマネギから採集したネギアザミウマ成虫は、モスピラン SL 液剤（IRAC コード：4A）、スタークル顆粒水溶剤（4A）、トランスフォームフロアブル（4C）、スピノエースフロアブル（5）、エクシレルS E（28）、ファインセーブフロアブル（未）に対して感受性が高い（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2018年、2020年に室内試験でガラス管瓶を用いた虫体浸漬処理および経口摂取処理で得られた結果をもとに殺虫剤感受性を判定した。
2. 防除上の留意点は、「佐賀県施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき-果樹（カンキツ）の病害虫防除- アザミウマ類（施設）防除上の留意点」に掲載。
3. 殺虫剤に対する抵抗性発達を防ぐため、防除の際は系統番号（IRACコード）が異なる殺虫剤でローテーション散布を行う。

[具体的なデータ]

表1 ネギアザミウマ成虫の施設カンキツ殺虫剤感受性（虫体浸漬）

| 薬剤名 | 希釈倍数 | IRAC | 補正死虫率（%） |
|------------|--------|------|----------|
| スピノエースFL | 4,000倍 | 5 | 100 |
| エクシレルSE | 5,000倍 | 28 | 100 |
| ファインセーブFL | 2,000倍 | 未 | 100 |
| モスピランSL液剤 | 2,000倍 | 4A | 65.6 |
| スタークル顆粒水溶剤 | 2,000倍 | 4A | 57.3 |
| トランスフォームFL | 1,000倍 | 4C | 38.2 |

注1) 場内タマネギから採集したネギアザミウマ成虫5~7頭を供試した。1処理3反復

注2) 各薬剤2mlに浸漬後、恒温室内で飼育した（25℃16L8D）

表2 ネギアザミウマ成虫の施設カンキツ殺虫剤感受性（経口摂取）

| 薬剤名 | 希釈倍数 | IRAC | 補正死虫率（%） |
|------------|--------|------|----------|
| モスピランSL液剤 | 2,000倍 | 4A | 100 |
| スタークル顆粒水溶剤 | 2,000倍 | 4A | 100 |
| トランスフォームFL | 1,000倍 | 4C | 100 |
| エクシレルSE | 5,000倍 | 28 | 100 |

注1) 場内タマネギから採集したネギアザミウマ成虫5~7頭を供試した。1処理3反復

注2) 各薬剤を10%スクロース液で希釈し、200 μ l給餌して恒温室内で飼育した（25℃16L8D）

研究課題名：畑作タマネギにおけるネギアザミウマの効率的防除技術の確立

予算区分：1/2 国庫（消費安全対策交付金）

研究期間：2018年～2021年

研究担当者：川内孝太、田中義樹

発表論文：なし